

海外戦略

主戦場のアジアで大型工事が続々

復興や東京五輪の先を見据えれば、国内の公共事業に安住してはられない。引き続き、海外に活路を求める動きは活発だ。各社が主戦場と定めるのが、インフラ投資意欲が旺盛なアジアの国・地域。得意地域に注力して受注を伸ばす企業が目立つ。

海外土木の存在感が増している。2013年度に約624億円を稼ぎ、売上高で1位を飾った五洋建設の場合、土木の売上高に占める海外の比率は32.6%だ。同社は、シンガポールで圧倒的な強さを誇る。50年前から大規模埋め立て工事などで政府と信頼関係を築いてきた成果だ。

13年末から14年7月にかけては、

都市高速鉄道(MRT)「トムソンライン」の駅舎や地下鉄トンネル工事3工区を、同国陸上交通庁から立て続けに受注した。受注額は合計約857億円に上った。トムソンラインについては、清水建設や大成建設、佐藤工業、西松建設も150億～300

億円規模の工事を受注している。

松建設も、売上高比率は32.3%に達した。同社は「利益を考えるとまだ道半ば」とするが、進出先の国・地域を香港、シンガポール、マレーシアに絞る戦略で成果を上げる。13年度の売り上げに寄与したのが、香港の鉄道事業者である香港鉄道から約310億円で受注した地下鉄西港線の延伸工事。駅舎と本線トンネルを構築する。工期は15年11月までだ。

ODA(政府開発援助)供与額が大きいベトナムに注力してきた三井住友建設の戦略も奏功している。09年から首都ハノイ市内で取り組んできたニャットン橋(日越友好橋)の建設が13年に完了。大型工事が一巡したこともあって13年度の売上高は前期比27.2%減となった。しかし、14年度以降の見通しは明るい。

14年に入ってから、ベトナムでは二つの工事が着工した。そのうちのひとつが、地元企業とのJVで受注したラックフェン国際港へのアクセス道路(総延長約15.6km)だ。ベトナム最長となる延長5.4kmの海上橋梁を含むビッグプロジェクト。同社の請負金額だけで240億円もある。

「受注のタイミングが合い、ニャットン橋で鍛えたメンバーを移行できた好例。土木の売り上げの2割程度

海外土木

売上高ランキング 上位20社中13社が増収、大型工事の受注相次ぐ

順位	会社名	売上高(百万円)	売上高比率(%)	次期見通し
1	五洋建設	62,422(▲4.0)	32.6	→
2	西松建設	42,098(32.8)	32.3	↗
3	東亜建設工業	38,483(34.9)	29.4	↘
4	大成建設	29,765(▲8.0)	10.1	—
5	大林組	24,434(43.3)	9.0	—
6	前田建設工業	18,619(▲2.9)	14.8	↘
7	鹿島	15,879(172.3)	5.3	↗
8	佐藤工業	14,576(22.2)	19.7	↗
9	清水建設	14,566(6.4)	6.7	—
10	東洋建設	13,799(26.3)	16.4	→
11	三井住友建設	12,856(▲27.2)	14.5	↗
12	大日本土木	7,441(▲21.5)	20.3	→
13	フジタ	7,398(3.6)	9.2	↘
14	安藤ハザマ	6,694(6.7)	6.1	↗
15	東急建設	5,762(34.4)	11.1	↘
16	クボタ工建	3,861(25.4)	30.5	↘
17	鴻池組	3,442(▲28.8)	5.6	→
18	徳倉建設	2,907(▲19.1)	22.0	—
19	丸新志鷹建設	2,600(171.1)	73.1	→
20	岩田地崎建設	2,311(56.4)	9.0	→

シンガポールの都市高速鉄道(MRT)「トムソンライン」の地下トンネル工事などを受注。5社の受注額の合計は約2000億円に上る(JV含む)。

ベトナムが好調。ハノイ市のニャットン橋は10月に開通予定。2014年には、新たに二つの橋梁が起工した

ネパールやブータンで強みを発揮。売上高の7割程度を海外が占める

カッコ内は対前期増減率。「売上高比率」は土木の売上高に対する割合

を占める海外工事を今後も伸ばしていきたい(同社の春日昭夫常務)。

リスクへの対応に苦慮

13年以降、ODA、非ODA問わず日本勢によるアジアでの大型受注が相次いだ。例えば、インドネシアのジャカルタ市では、円借款によって同国初となるMRTの建設が進ん

でいる。高架橋やシールドトンネルなどを15.7kmにわたって建設する南北線1期工事の全6工区を、清水建設や大林組、三井住友建設、東急建設といった日本勢が受注している。

拡大する海外事業で各社が気をもむのがリスク管理だ。過去に受注した大型案件での手痛い失敗経験は、今も後を引いている。

鹿島などは、アルジェリア政府から約5400億円を受注した高速道路工事の代金のうち1000億円強が未払いになっていることから、フランスの国際機関に仲裁を申し立てている。「解決して前に進みたい」(鹿島)ものの、成果はまだ出ていない。こうした足かせもあって、海外で攻勢に出にくくなってしまっている。

ベトナム・ハノイ市のニャットン橋建設工事では、北側のアプローチを手掛けた東急建設が、約8億円の延長経費を求めて同国の交通運輸省と交渉を続けている。約1億円が支払われたものの、「本件は現在進行中」(東急建設)。同工事では、用地の引き渡しが遅れて事業が停滞し、追加費用がかさんだ経緯がある。

受注額が大きい案件、用地買収や埋設物の移設を伴う都市部の工事には、注意が必要だ。工事の遅延や代金の不払いなどが生じると、会社の経営全体に影響が及びかねない。

今年7月、ベトナム南部のホーチミン市から地下鉄1号線のシールドトンネル工事を232億円で受注した清水建設は、設計・施工契約を結ぶ

前の交渉に1年以上も時間をかけた。「例えば、支障埋設物の移設は発注者の責任でやってもらうことになった。施工者側が負わなければならないリスクは、かなり減らせたと思う」(同社の柿谷達雄副社長)。

施工能力だけでなく、厳格なリスク管理能力を備えてこそ、海外事業を安定して伸ばしていける。

ベトナム
新規大型工事が動き出す14年度以降に期待

順位	会社名	売上高(百万円)	次期見通し
1	東急建設	1,716(▲5.8)	↘
2	三井住友建設	1,658(▲73.3)	↘
3	不動テトラ	1,627(8463.2)	↘
4	東亜建設工業	1,549(▲50.5)	→
5	西松建設	1,411(▲41.3)	↘
6	五洋建設	1,326(▲68.9)	→
7	鉄建	1,099(23.5)	→
8	横河ブリッジ	877(→)	↘
9	東洋建設	640(▲43.4)	↘
10	横河工事	352(40.8)	→

キルギス
岩田地崎建設(3億800万円)

ブータン
丸新志鷹建設(8億9900万円)、大日本土木(3億9600万円)

パキスタン
清水建設(8億1500万円)

ネパール
安藤ハザマ(18億7400万円)、丸新志鷹建設(17億100万円)

タイ
バンコクMRTの高架工事で東急が増収

順位	会社名	売上高(百万円)	次期見通し
1	東急建設	4,046(64.1)	↘
2	三井住友建設	2,953(44.1)	↘
3	三信建設工業	526(→)	↗

マレーシア
海洋大手が存在感示す

順位	会社名	売上高(百万円)	次期見通し
1	五洋建設	12,707(▲20.1)	↗
2	西松建設	3,700(▲28.1)	→
3	東亜建設工業	3,162(▲7.3)	→

バングラデシュ
クボタ工建(36億5900万円)、清水建設(8億1500万円)

ミャンマー
五洋建設(5億2700万円)ほか

スリランカ
前田建設工業(7億5600万円)、若築建設(5億3100万円)

モンゴル
大日本土木(10億4800万円)

香港
地下鉄の延伸工事で西松が2ケタ増

順位	会社名	売上高(百万円)	次期見通し
1	西松建設	24,375(32.2)	→
2	前田建設工業	15,951(▲25.2)	↘
3	五洋建設	10,649(15.0)	↗

ラオス
大林組(13億4700万円)、安藤ハザマ(5億6000万円)ほか

カンボジア
三井住友建設(29億5700万円)、安藤ハザマ(5億1700万円)ほか

ブルネイ
飛鳥建設(1億9000万円)

台湾
台湾電力のシールド工事で岩田地崎が増収

順位	会社名	売上高(百万円)	次期見通し
1	前田建設工業	3,542(216.3)	↘
2	奥村組	1,987(▲36.2)	→
3	岩田地崎建設	1,915(29.6)	↗

フィリピン
約60億円の河川改修を東洋建設が受注

順位	会社名	売上高(百万円)	次期見通し
1	三井住友建設	3,250(▲7.2)	↘
2	東洋建設	2,369(9.7)	→
3	清水建設	513(▲26.0)	↗

インドネシア
円借款の地下鉄工事など有望市場の筆頭格

順位	会社名	売上高(百万円)	次期見通し
1	東洋建設	3,512(233.2)	↘
2	清水建設	3,071(11.9)	↗
3	大林組	2,009(▲9.6)	↗
4	三井住友建設	1,568(▲12.4)	↗
5	東亜建設工業	1,323(▲4.3)	→
6	安藤ハザマ	1,019(17.9)	↘
7	五洋建設	188(▲4.1)	→
8	横河ブリッジ	110(→)	↘
9	飛鳥建設	42(→)	↗
10	横河工事	28(▲66.7)	→

回答が多かった国・地域での順位を表にまとめた。それ以外は図中に概要を示した。カッコ内は対前期増減率

シンガポール
五洋が盤石の強さ、14年度も増収を予想

順位	会社名	売上高(百万円)	次期見通し
1	五洋建設	36,100(3.6)	↗
2	東亜建設工業	26,217(43.4)	→
3	佐藤工業	13,576(27.2)	↗
4	西松建設	8,412(94.9)	→
5	清水建設	6,302(51.3)	↗
6	大林組	3,865(159.9)	↗
7	日本国土開発	2,274(▲1.2)	→
8	日本海工	882(▲58.6)	↘
9	ライト工業	476(287.0)	→
10	信幸建設	240(→)	→

